

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成 19 年 8 月 7 日
事業所名	グループホーム コムスのほほえみ高畑
事業所番号	2371001203
記入者名	職名 エントリーダ - 氏名 二村 友太
連絡先電話番号	052 - 369 - 2681

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『一人でも多くの高齢者の尊厳と自立を守る』と言う会社の理念に基き、サービスの提供を行っている。	○	ほほえみ高畑独自の理念は掲げておらず、今後スタッフ一同理念を掲げ行っていきたいと考える。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者の様々な指示の元、スタッフ一人一人が理念を理解し、ケアに取り組んでいる。	○	上記にあるように、ここ独自の理念を全員で生み出し、それを実践していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を行い、家族や地域の方々へ理念をお話しし、理解していただけるよう取り組んでいる。	○	運営推進会議の継続、家族や地域との交流を絶やさず、理念が今後も浸透し続けるよう努力したい。
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的な付き合いはないが、散歩等外出時にこちらから挨拶を行っている。	○	気軽に立ち寄ってもらえるような、雰囲気作り・関係作りを行ってきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者の働きかけにより、運営推進会議に自治会長様老人クラブ会長様等参加して下さっている。会議により情報を得て色々相談させてもらっている。	○	会議で得た情報を元に、地域活動への参加を進めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域への参加が今まで少なく、事業所の力を活かした地域貢献はあまり行っていない。	○	地域活動への参加を進めていき、もっと地域と密着して、事業所も地域の一人として役立つ事をしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義への理解はしているが、職員全員が全て把握し改善に取り組んでいるかは確認していない状況である。	○	外部評価による様々な意見を職員に周知させ、改善点を含め今後の運営に役立てたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では様々な報告を行っており、質疑応答により様々な意見を頂いている。	○	会議の時だけではなく、その後も職員への周知の徹底によりサービス向上へ役立てたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の福祉課の方とは面識・交流があるが、用事のある時のみ伺うだけで、こちらから積極的に行く事はあまりない。	○	用事がある時のみだけでなく行き来する機会を作っていき、市町村の意見も取り入れていきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	特に行っておらず、制度について知らない職員もいるように思う。	○	介護に従事するものにとって、しっておきたい高齢者の制度等、今後カンファレンスの時間などを利用して勉強していきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様への言葉使い・態度等、話し合い防止に努めている。	○	研修・講習などにもっと参加し、学ぶ機会を持ちたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>納得いく説明の上で契約・解約を行っている。</p>	○	<p>不明な点があるまま契約へと進まぬよう、利用者様・家族様によくご理解いただけるよう努めたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の話は良く聞くように心がけている。不満をスタッフに言ってくれる方についてはその都度対応しているが、特別に表せる機会を設けている事はない。</p>	○	<p>今後も利用者の意見には耳を傾けたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>運営推進会議等行事のある時・面会時、家族に会える時はその都度報告している。あまり面会に来られない家族には、適宜電話にての報告を行っている。</p>	○	<p>会える時にだけでなく、普段の様子を伝える機会を増やせれば、と思います。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の時、面会に来ていただいた時に意見を頂いており、対応している。</p>	○	<p>意見を頂く機会ももちろんだが、意見できる雰囲気作りにも徹したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の会議で、管理者と職員の意見交換は行われている。また普段からもその機会はある。</p>	○	<p>全て運営に反映できている訳ではない。状況に応じた対応により、意見を反映させていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>対応できるような勤務調整を行っているが、人員が十分であるとはいえない。</p>	○	<p>人員不足への対応を引き続き会社側へ訴えて欲しい。ホーム内でできる範囲で調整を行い、利用者様に迷惑をかけないようにしたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今までは管理者の異動がよくあり、利用者・ご家族へはスタッフがフォローしてきた。 今は管理者・スタッフともに異動・離職予定はない。	○	馴染みの関係はとても重要。特に利用者様には大きな問題である為、今後離職等の際にはきちんとした配慮が必要である。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特にそのような計画はない。社内の研修には職員を送り出していたが、社外に関しては積極的な参加を促してはいない。	○	会社より社外の研修へも出勤扱いで行っていいという事になった。管理者と相談の上、個々のスキルアップの為に研修に参加していきたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に行ってない。 同じ会社でのネットワークがありその交流はあるが、それ以外の目立った交流はない。	○	地域密着型サービスでもあるので、社内に限らず地域の同業者とのネットワークも広げていきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者や職員間ではストレス軽減について話しているが、人員不足によるストレスが多い状況で、なかなか軽減には繋がらない。	○	とにかく事業所内で、仕事に対するストレスや悩みの軽減への工夫をして行きたい。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	会社側にて問題あり。事業所内ではできる事は行っている。	○	新体制に期待し、向上心を持って働ける環境を提供して欲しい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面会時や電話による対応、心を開いてもらえるような信頼関係を築いていけるよう努力している。</p>	<p>○</p> <p>家族の訪問や相談がほとんどである。来る事が出来る状況であれば、利用者にもホームへ足を運んでもらえたら良いと思う。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホームは認知症の方が入居する為、家族との信頼関係も重要。きちんと話を聞き対応している。</p>	<p>○</p> <p>相談を待つだけではなく、こちらからも察して色々お話しできれば、と思う。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>状況から全体像を見極め、必要な支援を把握し対応している。</p>	<p>○</p> <p>利用者本位を頭におき、必要なサービスを提供していきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者には初めての訪問が入居日と言う事が少ない。家族の方は事前に来られる方が多いので、うまく溶け込めるよう相談・雰囲気作りを行っている。</p>	<p>○</p> <p>実際に利用者が来れない事が多いので、家族の協力も得て馴染めるような雰囲気作りに努めたい。家族・スタッフにサービスの内容を確認・相談した上でサービスに入りたい。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>話しの中から本人の新たな一面に気づき、本人から学ぶ事もある。</p>	<p>○</p> <p>支えあう関係をもっと築いていけたらいいと思う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族でしか分からない事を聞き、毎日のケアに努め、支援している。	○	家族と共に情報を共有しあいながら、良い支援・良い関係を築いていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係は面会時などに感じ取っている。	○	本人と家族の関係を理解し、その関係に近い関係を築き支援していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係が継続している利用者に関しては、関係が途切れないような支援に努めている。	○	馴染みの関係は高齢者にとっては特に重要であると思う。途切れぬよう支援していきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は把握している。	○	利用者同士の関わり合いをもっと持ち、お互いが支え合うような関係を築けるよう支援していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去時に「何かございましたらご相談ください」と声掛けは必ず行っているが、関係を断ち切らないつきあいは特にはない。	○	解約後の付き合いも大事にし、その方を少しでも支援していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>把握に努めてはいるが、共同生活と言う事もあり、全ての希望は聞けていない。</p>	<p>○</p> <p>共同生活ではあり全てが叶うわけではないが、出来る限りでご本人の希望に沿うよう検討したい。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>会話の中から、また家族の情報から、今までの暮らしを聞き把握に努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後センター方式によりアセスメントしていき、スタッフ同士暮らしの情報を共有していく。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>少しの変化に気付ける様心身状態の管理に努めている。</p>	<p>○</p> <p>心身状態を今度も把握し、その中でそれぞれの有する能力を見出し発揮できるよう援助したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月一回ユニットごとのカンファレンスを行っており、そこで出た意見を取り入れている。</p>	<p>○</p> <p>家族の意見をもっと聞く機会を増やし、また意思表示の難しい利用者に対しての聞き取りをしっかりと行って行き、計画に取り入れたい。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>計画の期間が切れる前や何か問題が起こり見直したい時、管理者・計画作成担当者・職員などで話し合い見直し作成している。</p>	<p>○</p> <p>今後も現状に即した計画を作成していきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	行動や言動を記録に残し、気づきなどは介護計画に取り入れている。	○	情報の共有は重要。ささいな気づきも記録に残していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今現在特に行っていない。	○	ホームでの生活がほとんどであり、多機能性を活かした活動は行っていない。これから色々考えて行える事を探していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアや消防機関などの協力を得ているが、頻繁ではなく、本人の意向や必要性に必ずしも応じているわけではない。	○	地域資源との協働をもっと増やせると良いと思う。考えてみたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは利用していない。	○	必要に応じて、他のサービスを利用する為の支援をしていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	行っていない。	○	本人の意向、必要性に応じて協働していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医にかかる方には納得して頂いてから医療を受けている。	○	本人及び家族等の希望をしっかりと把握していきたい。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	提携医への相談はしている。	○	認知症に詳しい医師との関係を築いていきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医病院の看護職員との相談をし、看護職員の方も利用者の状態をよく理解してくれている。	○	利用者の状況などをしっかりと伝え、今の現状を伝えていきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入退院した時は、情報交換や相談をしている。	○	退院後、同じ事を繰り返さないよう今後の対応などを聞き再発防止に努めていきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族、提携医、職員の意見を共有している。	○	重度化した場合のありかたをもっと話合っていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所のできること・できないことの見極めはできている。	○	今後の変化に備えた検討や準備を行っていききたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み慣れた家の家具を置くなど、本人の不安を軽減できるような声掛けをできるようにしている。	○	住み替えがある時は、移り住む所への抵抗を抑えるための情報交換がスムーズに行えるよう関係者間での情報収集をしておきたい、
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損なわないよう、親身な声掛けを心掛けている。	○	個人情報の取扱いについて学んでいきたい。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	こちらで本人の気持ちの決め付けをせず、意見を聞くようにしている。	○	自分の意志を表せるような促し、声掛けをしていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを見て過ごし方を考えている。	○	具体的な希望を聞いていない為、しっかり希望を聞き支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望の店があり、家族の協力が得られる方は、家族に連れて行っていただいている。	○	理容・美容に関しては、全員が望む店に行っているわけではない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のちょっとした準備・食器の後片付け等はしていただいている。そのような段階になったら声を掛け、力を活かせる場を作っている。	○	認知症であっても、出来る事をきちんと把握し、もっと家庭的な事が自身で行えるよう支援していきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きな飲み物などは把握し出している。	○	今以上に本人の嗜好を理解できると良いと思う。
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレへの促しをしている。	○	排泄の失敗やオムツの使用が減るような支援を今以上に考え行っていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	聞ける希望は受け入れ支援している。	○	ある程度の時間帯を決めて行っている
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	自己のタイミングで休息し、それぞれの生活習慣に沿うよう支援している。	○	安心できる環境や声掛けを徹底していきたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いがいきすぎ喧嘩になってしまうこともある。	○	それぞれのできる事を見極め、一人一人が役割を持てると良いと思う。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には所持してはいけない事になっている。 (会社の方針) 例外で所持している人はいるが、使う事はあまりない。	○	お金の所持を重要に思っている方には、今後も所持する事を支援していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ散歩に行っているが、現在のような夏の間は暑い為、外出の頻度は少ない。	○	時期をみて、出かけられる機会をつくってきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ホーム全体としての外出計画は出ている。家族などに相談し、出かける機会を作ろうと言う事は話し合いで出ている。	○	計画を実行に移し、ホームや近所だけでなく、外出機会を設けたい。 又、家族へも働きかけたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方は、家族に確認した上でできるようにしている。	○	今後も家族や親しい人との繋がりとして、電話や手紙のやり取りを支援していきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に工夫は行っていないが、訪問時には明るい対応をさせていただいている。また本人の普段の生活や身体状況を伝えたり、スタッフとのコミュニケーションを取るようにしている。	○	従来どおり、たくさんの方が気軽に訪問して頂ける様、良い雰囲気作りに努めたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が見過ごされる事のないよう注意している。	○	身体拘束することのない生活を継続させていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は理解はしているが、二階の入り口は外に階段がある為、危険防止の為に施錠している。	○	二階入り口はやむを得ないが、鍵をかけないケアは今後も理解し継続していきたい。
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	安全確保の為、スタッフ同士声を掛け合い、常に一人は状況を把握できるよう体制を取っている。	○	危険を回避し安全に配慮していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その利用者が使用困難な場合は、利用者の理解を得てこちらで保管し、職員と共に使用する事を心掛けている。	○	本人が必要であるものは、安全を考慮した上でホームでの保管等により、所持できるようにしていきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止を普段から心掛けている。転倒などに関しては起こってしまう事もあるが、管理者・医師・家族等による連絡をスムーズに行い、迅速に対応している。	○	改めてスタッフ一人一人が事故防止をしっかりと考え、事故を事前に防止できるよう改めて話し合ってみたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練は行っていないが、急変・事故発生時は管理者への連絡・提携医への連絡を即座に行い、指示を仰いだ上で行動している。	○	訓練として普段から行い、スタッフが共有できる対応について勉強できるといいと思う。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の方を交え、消防訓練を行っている。	○	消防訓練時、夜間の災害について話が合った。夜勤者の為にも改めて話し合いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故が起きそうなケースは、家族に相談している。	○	今後も、今現在の問題だけではなく、起こりうるリスクについてもカンファレンス等で話し合い、家族等に相談していきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化や異変があった場合は、速やかに報告・連絡・相談を徹底している。	○	提携医への相談・連絡もしている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬がかわった時は職員全員がわかるように情報共有している。	○	職員全員が一人ひとりの服薬状況を把握できるようにしていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲み込み・消化などが悪い方には刻み・トロミ食対応している。	○	便秘を予防する働きかけを行っていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの力に応じて口腔衛生保持に努めている。	○	誤嚥防止に力をいれていきたい。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や力は把握している。	○	水分提供はしているが、摂取量が少ない時が多々ある為、うまく確保できる方法を考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種などは行っている。疥癬などマニュアルにそって対応するようになっている。	○	感染などあった際、他の利用者やご家族の心配や不安も考えて対応していけるとよいと思っている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	長期の買い置きはせず、できるだけ新鮮な食材で提供している。	○	台所、調理器具の衛生管理にもっと力をいれたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	定期的に掃除をし、花壇などは職員全員で協力して草取りなどしている。	○	他に安心してでいりができるような工夫があれば取組んでいきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節などに合わせ飾り付けなどしている。	○	不快な音や光がないか注意してみたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人で過ごせる空間と利用者同士で過ごせる空間ができています。	○	毎日雰囲気の良い空間にしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	箸や茶碗など小物類を馴染みの物を使用している 方が多い。	○	むかしからの馴染み物がある場合はそれを活用 していくようにしたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気は常にしており、温度調節は個人個人に合 わせて行っている。	○	気になるにおいなど発生した場合は利用者の気分 を損なわないよう注意していきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	その人の力に応じた部屋の提供をしている。適 した家具の配置や環境整備は常にしている。	○	建物内部を活かし、自立した生活ができる工夫を していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	混乱をしないような声掛けを心掛けている。	○	接し方が適していない場合がある時は、その職員 の指導に努めていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	テラスがあり、涼しい時期は日光浴やお茶を楽し んでいる。	○	1階、2階の利用者、職員が気軽に一緒に活動し 楽しんでいきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員と利用者、ご家族がより良い関係を築けるようケア、コミュニケーションに力をいれて取り組んでいます。利用者、ご家族が安心できるホームを目指しています。